

EC2関連の(上限)数字を一覧にしてみた

AWS

SWX管理者 (id:serverworks) 7年前

記事タイトルとURLをコピーする

この記事は1年以上前に書かれたものです。
内容が古い可能性がありますのでご注意ください。

最近色んな方から生暖かい目で見られる事が増えた気がする小室です。

本日はEC2関連を使って行く上で出てくる数字に関して記載します。

※見つけたら追記する予定です。

※間違っていたらすいません、@ayakomuro に教えてください。

※情報は 2014/3/4時点のものです。

前提条件

- 1 AWSアカウント
- 各リージョンをベース（それ以外はコメントに追記）
- 数字は最大数（最小の場合はその旨コメントに追記）

共通

上限緩和可否	リソース	デフォルト上限数	コメント
×	タグ	1リソースに対して最大10個	参考URL

Amazon EC2

上限緩和可否	リソース	デフォルト上限数	コメント
•	EIP	5個	
•	オンデマンドインスタンス数	タイプによって変わる	
•	スポットインスタンス数	タイプによって変わる	
•	リザーブドインスタンス数	アベイラビリティゾーン毎に毎月20個	
×	セキュリティグループ(Classic EC2)	500個	参考URL
×	1 セキュリティグループ内のルール/ パーミッション	100個	
-	AMI	特に明記なし	
×	キーペア	5000個	参考URL

Auto Scaling

上限緩和可否	リソース	デフォルト上限数	コメント
•	ランチコンフィグの数	100個	
•	オートスケーリンググループの数	20個	

Elastic Load Balancing

上限緩和可否	リソース	デフォルト上限数	コメント
•	ELBの数	20個	
•	登録SSL数	10個	緩和URL

Amazon EBS

上限緩和可否	リソース	デフォルト上限数	コメント
●	EBSボリューム数	5000個	
●	スナップショット数	10000個	
●	スタンダードボリュームの総容量	20 TiB	
●	プロビジョンドIOPSの数量	10,000 もしくはプロビジョンドIOPSのボリューム総量が20TiBに達したかのどちら)	
-	アタッチ出来るEBSボリューム数(Windowsサーバで Citrix PV ドライバーを使っている場合)	25個	技術的には26個以上アタッチも可能だが、パフォーマンス的にお勧めはしない 参考URL
-	アタッチ出来るEBSボリューム数(Windowsサーバで Red Hat ドライバーを使っている場合)	16個	上記同じ
-	アタッチ出来るEBSボリューム数 (Windowsサーバ以外)	AWSアカウントでの上限利用可能な数まで	上記同じ
x	EBSボリュームの容量サイズ	1 GB ~ 1 TB	
x	1ボリュームでのプロビジョンドIOPS数	4000 IOPS	

CloudWatch

上限緩和可否	リソース	デフォルト上限数	コメント
x	metric保存期間	2週間	参考URL
x	アラーム数	5000個	各リージョンではなく1AWSアカウントにつき
x	1メトリックにつきアサイ	10個	

	ン出来るディメンション数		
x	PutMetricData リクエスト のサイズ	HTTP GET リクエスト 8 KB HTTP POST リクエスト 40 KB	

参考記事

- http://docs.aws.amazon.com/general/latest/gr/aws_service_limits.html
- <http://dev.classmethod.jp/cloud/aws/aws-limits/>